

(様式2)

## カーフフィーダーによる乳用雌子牛哺育管理の検証

：長野県伊那家保 西村悠美子

搾乳牛300頭の酪農経営でカーフフィーダー(CF)を導入。完全自家育成体制を確立するため、哺育管理体制を検証。調査内容は0～12週齢の飼養管理、体測、血液検査、糞便検査(寄生虫、サルモネラ)、抗体検査(下痢・呼吸器病関連ウイルス)、63℃30分低温殺菌した廃棄乳(P乳)の細菌検査。生後1週齢まで単飼で人工哺乳後、CF1基で約10頭の群飼に切り替え、8週齢で離乳。P乳の1日給与量は、1週齢までは人工哺乳で4L、以降はCFで12Lを上限に漸減。12週齢までの1日平均増加量は体重1.02kg、体高0.22cm、胸囲0.41cmで標準発育を上回る。0週齢のTP平均値は4.76g/dl、 $\gamma$ -GLB平均値は0.38g/dl。糞便検査は陰性。牛ウイルス性下痢ウイルス1型、牛コロナウイルスの抗体価が有意に上昇。低温殺菌直後のP乳は細菌検査陰性。CFホース内のP乳から $2.0 \times 10^5$ cfu/ml以上の細菌を分離。初乳の給与、ワクチンプログラム、CFの衛生管理が課題。